

総	説
---	---

四條畷学園大学で行った初年次導入教育について

河井 秀夫

四條畷学園大学

四條畷学園大学は平成17年度に大学として開学した。リハビリテーション学部リハビリテーション学科理学療法専攻および作業療法学専攻があり、セラピスト養成を目的としている。平成13年度に四條畷学園短期大学リハビリテーション学科として開学したので、今年でセラピスト養成校として10年の星霜を重ねたことになる。大学を卒業すると、セラピストとしての国家資格取得の受験資格を得る。国家試験に合格すると、理学療法士（PT）あるいは作業療法士（OT）として資格を活かした仕事ができる。

平成17年と平成18年に入学した学生の、卒業までの推移に関して修学率がよくなかったため、問題意識を強くもった。理学療法専攻では平成17年の入学志願者766名中、44名が入学したが、留年や退学せずに卒業できたものは30名であった。平成18年度では入学志願者629名中、44名が入学、ストレートに卒業できたものは25名であった。作業療法学専攻では平成17年の入学志願者222名中、44名が入学したが、問題なく卒業できたものは25名であり、平成18年度では入学志願者186名中、39名が入学、ストレートに卒業できたものは24名であった。平成17年および平成18年入学者は、それぞれの専攻で14名から19名の学生が入学から卒業までの間に蹉跌をきたしたことになる。入学者3人に1人もしくは5人に2人が躓いているという、看過できない数字である。

このような状況下にあって、学生教育の課題が何かを探り改善の道を図るため、平成22年1月8日、四條畷学園大学2年次学生を対象に授業などに関する調査を行った。

調査は、次の内容で行った。

- ①大学生活を楽しく過ごしていますか？
- ②その理由は、どうしてですか？
- ③大学に入学して、学習などに戸惑ったことはありますか？
- ④授業単位取得に困難なことがありましたか？

⑤大学の授業で、あって欲しい授業は何ですか？

⑥大学入学後、高校授業レベルの復習の必要性を感じましたか？

⑦大学入学後、高校レベルの復習はどのような科目について必要性を感じましたか？

⑧現在のカリキュラムについて、改善して欲しいことがありますか？

この調査では、70名中65名からの回答があり、次の結果を得た。

- ①楽しく大学生活を過ごしている学生は、15%である。
- ②楽しいが苦しくもある理由は、カリキュラムがきつくて、授業が難しい。挫折しそうになり、楽しいことがない。
- ③授業が難しく、専門用語が出てくる。物理や数学の素養を要求される。高校から大学の授業への連携に課題がある。
- ④運動学、解剖学、評価学、生理学の授業単位を落とすことが多い。
- ⑤大学の授業の中に、コミュニケーション能力開発や論文作成法などを希望している。
- ⑥88パーセントの学生が高校レベルの復習授業の必要性を感じている。
- ⑦高校レベルの授業の中で、物理、数学、生物などの必要性が高い。
- ⑧現在のカリキュラムに関しては、空きコマをなくしてバランスがよく取れた時間割にして欲しい。

この結果を受けて、平成22年度入学の1年次学生から、早速、リメディアル教育を開始した。

平成22（2010）年度入学生に対して、基礎学力の向上ならびに専門教育の基礎知識として必要な知識を身につけ、専門教育への導入を円滑にするために、物理学・生物学・数学の補習授業を外部の講師を招いて実施した。

表1 リメディアル教育時間割表

新入生 4/5(月)～4/9(金) 特別講義予定					
	4月5日(月)	4月6日(火)	4月7日(水)	4月8日(木)	4月9日(金)
9:00-10:00	専任教員による出席確認 および1週間のガイダンス 9:15～10:00	数学(物理)2 ベクトル	物理4 力と運動-力の つり合い	生物5 血液	数学5 統計-平均・標 準偏差・相関関係
10:15-11:15	確認テスト 数学 10:15～11:00	生物2 刺激の受容-受容 器・筋肉・音の伝わり	数学(物理)3 ベクトル	物理7 力と運動-いろ いろな力と運動	生物7 ホルモン
11:30-12:30	確認テスト 生物 11:15～12:00	物理2 物体の運動-加 速度	物理5 力と運動-運動 の法則	数学4 確率-意味	物理9 熱とエネルギー
昼食					
13:30-14:30	数学1 四則計算	生物3 刺激の受容-神 経系 興奮伝導	(リフレッシュ「ストレッチ」 体を動かして、力と運動 の関係を理解する)	生物6 自律神経	到達度テスト
14:45-15:45	生物1 細胞の構造と働き・ 顕微鏡の使い方	物理3 力と運動-力	生物4 刺激の受容-神 経系 中枢神経	物理8 仕事とエネル ギー	
16:00-17:00	物理1 物体の運動-速度	(リフレッシュ「花見」)	物理6 力と運動-運動 方程式	個別質問	
希望者もしくは、到達度に満たない学生を対象として、 4/20(火)以降 毎週 PT(理学療法学専攻)2限目 OT(作業療法学専攻)1限目 10回 補習を行います。 欠席などの連絡は、1年担任(PT雨夜・OT巽)にすること。					

リメディアル教育を実施する上で必要な単元については、教員及び在校生にアンケートを実施し、中学・高校の物理学・生物学・数学の中から専門基礎科目を学ぶ上で必要だと思われる単元を抽出した。その情報を基に、事前に外部の講師と各専攻の代表の教員が相談を行い、その単元を中心としたリメディアル教育独自のテキストを作成した。

講義を開始するに当たり、入学生の基礎学力を確認するための「確認テスト」を実施し、その学力に応じた授

業スピードになるよう、教員が調整を行い実施した。実施時間は、入学直後の1週間で、物理学9時間・生物学7時間・数学5時間をランダムに実施した。また、講義以外に、リフレッシュタイムとして、花見の実施や、なぜ物理学などの学習が必要なのかを理解するために軽体操を行いながら専任教員が講義を実施した。最終日には、1週間の学習の効果を確認するための「到達度テスト」を実施した。

「到達度テスト」において、十分な学力に到達してな

表2 理学療法学専攻および作業療法学専攻の確認テスト・到達度テストの結果

		数学			生物			物理		
		確認 テスト	到達度 テスト	伸び率 (得点)	確認 テスト	到達度 テスト	伸び率 (得点)	確認 テスト	到達度 テスト	伸び率 (得点)
理学療 法学専 攻	平均点	46.8	80.2	33.4	22.5	81.7	59.2	15.4	54.9	39.5
	標準偏差	22.0	15.4		10.3	19.5		9.2	19.0	
作業療 法学専 攻	平均点	44.6	82.4	37.8	21.6	76.9	55.2	14.4	56.1	41.7
	標準偏差	25.4	25.8		15.7	22.2		11.0	24.6	

い学生を対象に、週1回90分の補習講義を個別対応の形式を取って10回実施した。

リメディアル教育の導入成果をみるには、もう少し時間を要する。

どのような効果が出てくるのか、あるいは意味を成さないのかは、年度毎に評価検討する必要がある。

日本の平成22年度大学進学率は50.9パーセント、短期大学では5.9パーセントであり、大学・短大に進学する割合は56.8パーセントであった。大学がエリート養成機関から大衆（マス）教育機関を経て、今や大学在籍人口割合が50パーセントを超えるユニバーサル・アクセス機関へと変貌している。現在、高校3年、秋の学校以外での学習時間が「ほとんどなし」の高校生が40.5パーセントにのぼり、ユニバーサル化によって勉強しなくても大学に入学できるのである。そのため進学した大学の授業に困難さを感じる学生は、26.6パーセントであると言われている。大学生になってからの学習時間は、多くの学生は自宅学習をしていない。また、授業外の学習時間が1日1時間未満の学生が、入試選抜度の高い大学でも半数に達していると報告されている。学校基本調査速報2007によれば、大学から社会への移行の困難さと深刻な“キャリア挫折”が言われている。キャリア挫折の内容は、大学中退者11パーセント、進路未決定者14パーセント、大卒後一時的就業者2パーセント、大卒後3年未満の離職率32パーセントの状況である。すなわち、大学入学後2人に1人、約5割が大学から社会への移行途中でキャリア挫折をしているのである。更に卒業後の就職難が、これに追い打ちを加えている。働きたくても働く場がない大学卒業生数が、毎年8万人とも10万人とも言われている。高等教育の成果とその損失が広く議論されているのである。このままで日本はほんとうに大丈夫なのだろうか。社会全体に、不安がなんとなく広がっているのである。国家の大計の根幹は教育にあること、誰も異論はなかったはずである。

四條畷学園大学において直に卒業できない学生数を把握して感じることは、教育の内部崩壊を物語り、教育が危機的状況にあるともいえる。入学から卒業までの間には、4つのハードルがあると筆者は考えている。躓きの第一は、入学後に自分の考えていた進路と入学後の実際の教育状況に不適合があると気付くことである。この場合は、早期に進路変更すべきであり、出来れば進路変更の助言も必要性が高い。大学入学後2年次、3年次になってからミスマッチに気が付くのでは遅く、時間の浪費と

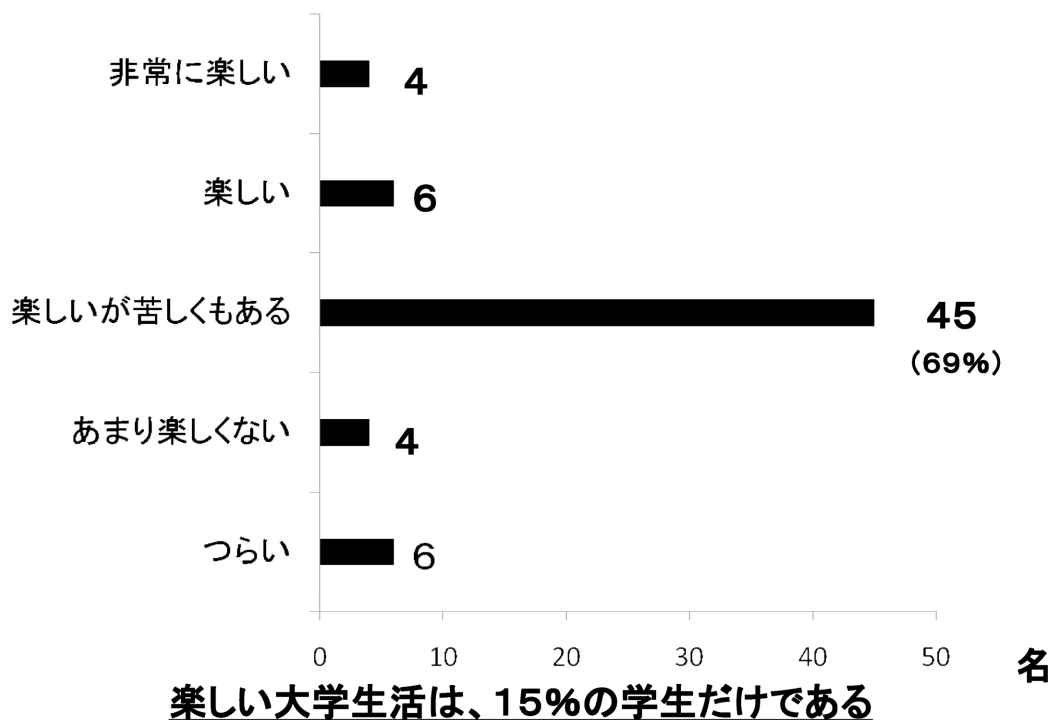
考える。問題点の第二は、学生の学習能力の問題である。憶えることが多く、授業についていくことが困難と思っている場合でも、到達目標を持ち学習意欲を高められれば問題解決は可能である。今回行ったリメディアル教育も、課題解決の一助になればと考えている。第三の問題点は、座学での学習成果を獲得後に体験する臨床実地教育である。臨床実地教育は実習前教育手法、その在り方、評価方法、そこで躓いた学生の補習実習など、課題は単一でなく複合的である。知識や技量とともに対人関係能力や人格的成熟度も試される。対人関係能力や人格的成熟などは、単なる教育の中だけでは修得困難な側面も持っている。実習前にリメディアル教育に相当する、実習前教育手法の開発や導入が期待される。学生一人ひとりの実習施設での進捗状況の把握、課題の早期発見、適切な支援は必須な点である。

第四の問題点は、国家試験である。この課題は、セラピストには必須の要件であり、第三の問題までが解決できれば、自ずと通過できるものと考えられる。修学率の向上は、それぞれのハードルをいかにクリアするのに関わっている。

四條畷学園大学の学生からの叫びをしっかりと聞き、受け止め、何が必要なのか、どうすれば良くなるのか、教職員一人ひとりが改善への意欲を持ち、継続的に行動できる総合力が問われている。

リメディアル教育の導入は、四條畷学園大学が目的としている建学の精神「報恩感謝」、教育の使命である人間性豊かな高い職業倫理感を持ち、高度の科学性と技術性を備えた職業人を世に送り出すための端緒にすぎない。学生への教育力の向上は、教員の質的向上や教育に対する情熱に関わっている。リメディアル教育だけで学生の修学状況がすぐ変わってくるとは思わないが、選別、競争を強いる教育から、個人の能力に応じた、目標・目的を明確にした専門職養成教育への意識変革が必要である。専門職養成教育の改善・改革への弛まない継続的な取り組みによって、歩が前に進むことを願っている。平成23年度から導入が予定されている新カリキュラムによって、バランスのよいコンパクトなカリキュラムとなり、学生満足度が向上し修学率が改善することを期待している。

1. 大学生生活を楽しく過ごしていますか？



2. その理由は、どうしてですか？

7割の学生「楽しいが苦しくもある」の理由は、

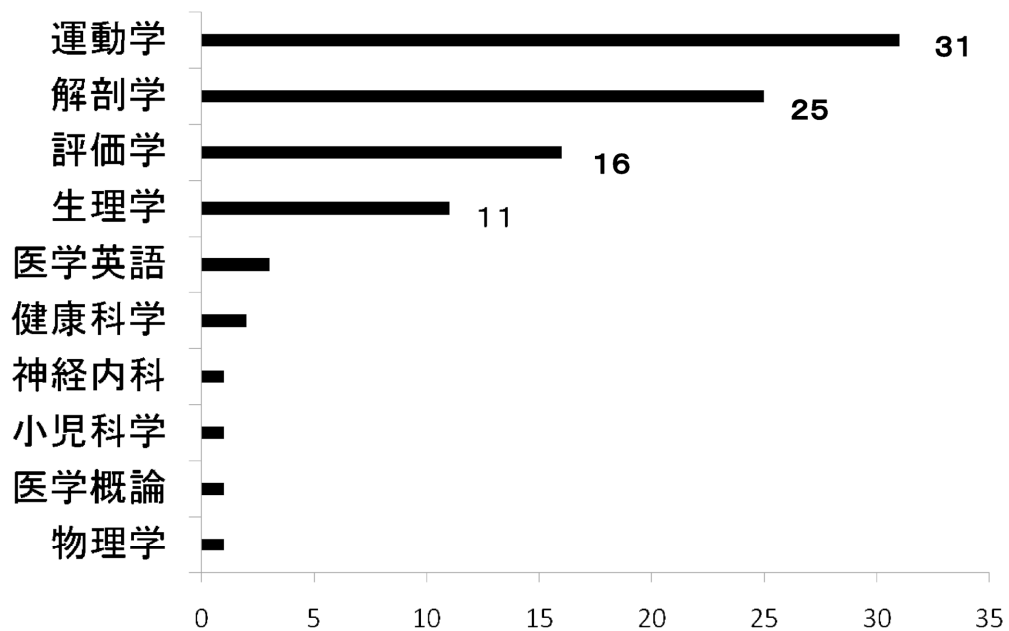
カリキュラムがきつくて、授業が難しい
挫折しそうになる
楽しいことがない

3. 大学に入学して、学習などに戸惑ったことはありますか？

- ・授業が難しい
- ・専門用語が出てくる
- ・予想外に、物理、数学の素養を要求される

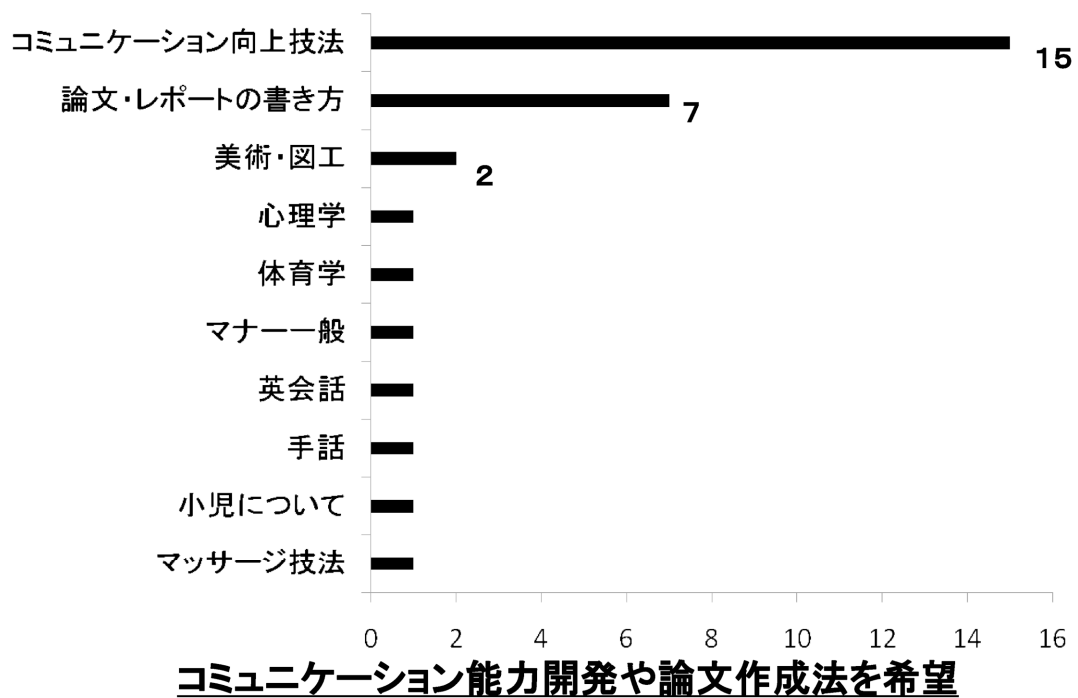
高校から大学授業へのつながりにハードルがある

4. 授業単位取得に困難なことがありましたか？

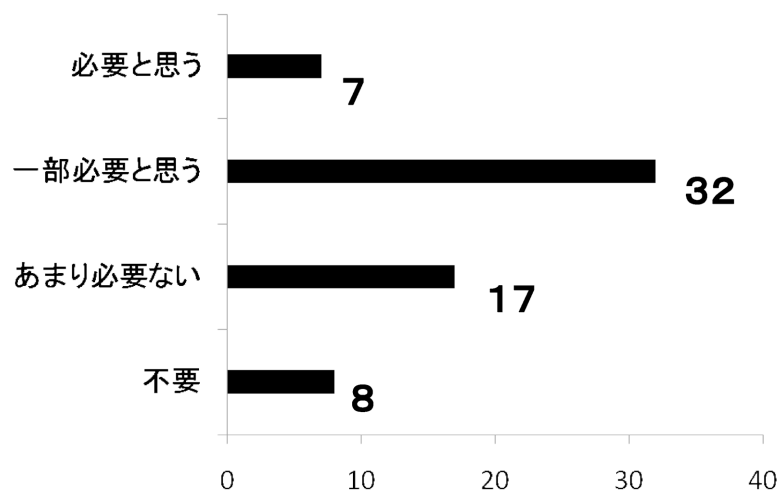


運動学、解剖学、評価学、生理学に困難性が高い

5. 大学の授業で、あって欲しい授業は何ですか？

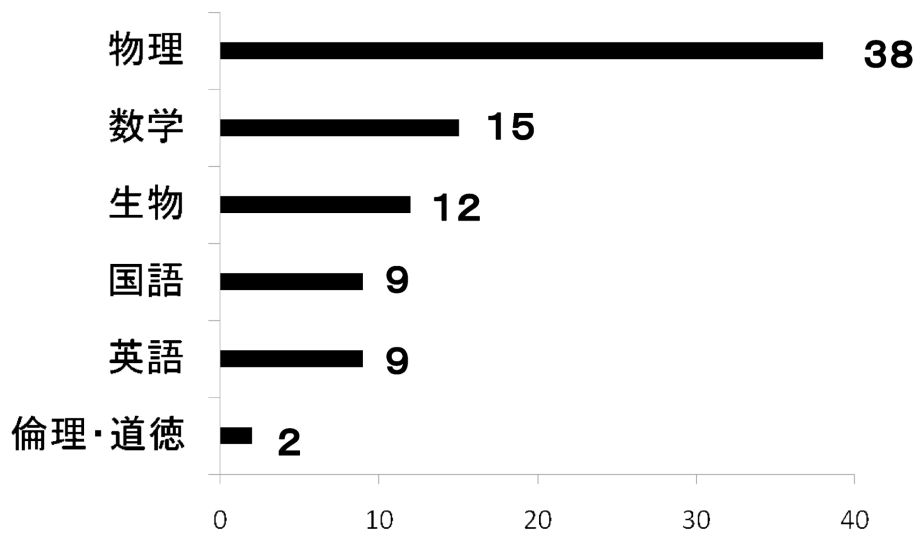


6. 大学入学後、高校授業レベルの復習の必要性を感じましたか？



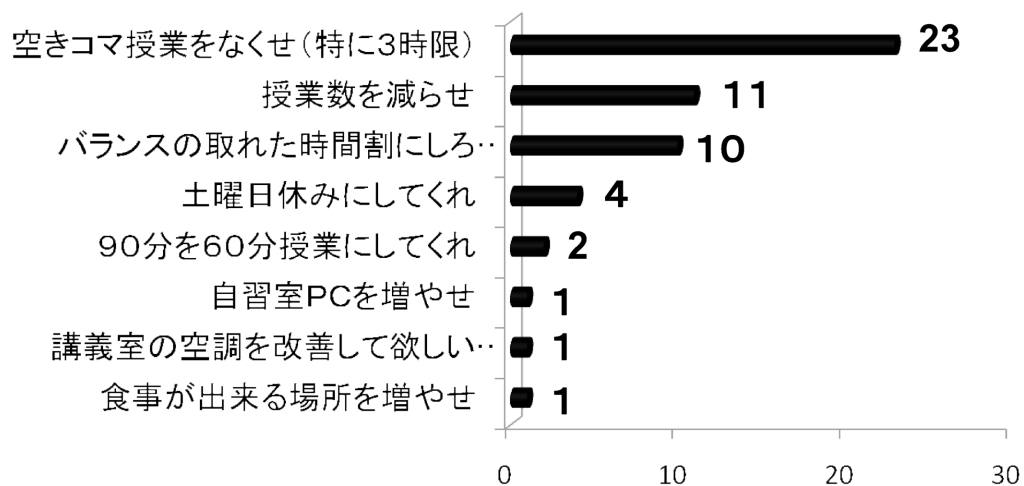
88%の学生が高校レベルの授業復習の必要性を感じている

7. 大学入学後、高校レベルの復習はどのような科目について必要性を感じましたか？



物理、数学、生物(国語、英語)の必要性が高い

8. 現在のカリキュラムについて、改善して欲しいことがありますか？



空きコマをなくし、バランスの取れた時間割、コマ数削減し余力を持つ